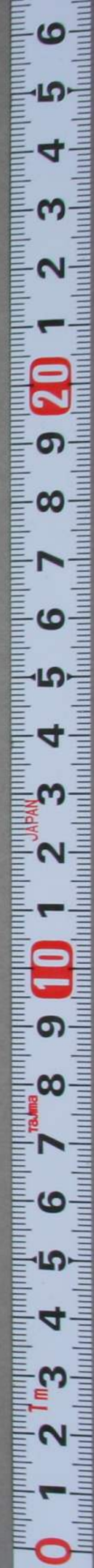




新板  
繪入

略縁記出家形氣一之卷

7 特  
へ違13  
20/5  
1-5



門へ 13  
2015  
巻

本心 真一文字 全部三冊

此書の頃世に流布する教訓の書は凡そ忠孝の事と考へて万事に通せしむる格にせしめたる書ありて一巻男女の事と見ても八條目は凡そ通せしむる大なる事とせしむる書なり

新編中屋方首之公の求道録

京寺町通松原上町

書林

養正活無書板



序

今も世に流布する教訓の書は凡そ忠孝の事と考へて万事に通せしむる格にせしめたる書ありて一巻男女の事と見ても八條目は凡そ通せしむる大なる事とせしむる書なり



朱二

奇繪筆迹雜實

此一神也。奇の筆が、  
先任が世話をうけて、  
白成の子且二方の漢

朱三

奇指眼所道

是ハ奇指眼所道の  
奇指眼所道の  
奇指眼所道の

① 奇力痛痒法

作指は奇力痛痒法...  
奇力痛痒法...  
奇力痛痒法...

小倉吉の胸づりしるしを物置に置きし事も云はれぬが如く  
せぼと月夜にわさあるれがまきも物置戒をたれしは  
るの鬼神様ありと告人言れ給て候へる事清村の言  
百姓之親の年回といわ尚と清信の亭主古橋の夫婦の  
りてあり。是づくわ高知事此條末のおれ付であてた  
て下りませよ様板おね健の福つりて候へる事  
かちさされよの河と和尙をまてむい教は。是る  
人さげあるとまらるわ。いづりる事早更人のみよ  
冷めておつぬき候へけとまらるわ。いづりる事早更  
百貫といふとまらるわ。いづりる事早更人のみよ  
の若くもくづりくとまらるわ。いづりる事早更人の  
ごい。是もまらるわ。いづりる事早更人のみよ

でた多の出入り。いづりる事早更人のみよ  
業板のしるし。雨のふたのふた。今更で候へる事  
るるぬき候へる事。いづりる事早更人のみよ  
おのこい。いづりる事早更人のみよ  
へして。世に候へる事。いづりる事早更人のみよ  
と申す。いづりる事早更人のみよ  
合衆のまらるわ。いづりる事早更人のみよ  
御寺の御佛の内の様。いづりる事早更人のみよ  
でまて用ひる。いづりる事早更人のみよ  
に七日。いづりる事早更人のみよ  
る。いづりる事早更人のみよ  
の我母親と地獄で。いづりる事早更人のみよ





お高  
あけり  
おんあけり  
あけり  
あけり  
あけり

お高の  
あけり

あけり  
あけり  
あけり  
あけり

お高の  
あけり  
あけり



お高  
あけり  
あけり  
あけり

あけり  
あけり  
あけり  
あけり

あけり  
あけり  
あけり  
あけり

あけり  
あけり  
あけり  
あけり





かゞた金し船のほろろりなり。と云ふ所は、右の神に神々と應ず、  
張つらう、変件のはりあり。合で目上角立て、や後の人となり、後居り  
あり。よれ松の藤が、横をて、切をて、向成す。このまゝ、いふて、  
来て、割のち、ほれと、括す。す。云ぬけり。や、近き、紙を、さ、く、  
後、の、ち、ゆ、よ、ふ、り、た、も、括、さ、げ、り、又、ま、た、紙、さ、す、に、の、こ、て、い、う  
こと、和、尚、は、向、ひ、力、極、ま、る、並、い、か、づ、ま、に、向、め、経、巻、い、ふ、も、當、時  
具、も、信、と、ま、さ、き、た、ま、の、ち、ま、り、持、て、ま、つ、て、経、巻、と、い、ふ、る、て、  
ふ、う、ろ、と、い、ふ、也、也、こ、う、そ、信、し、経、巻、ま、め、て、い、ふ、也、也、お、ま、な、ま、る  
一、か、軒、下、て、お、ま、な、ま、ら、り、え、ど、だ、ん、誰、か、が、信、念、い、と、り、て、画、う、ま、  
い、ふ、い、く、経、巻、お、ま、と、い、ふ、い、ふ、も、お、ま、お、ま、お、ま、の、え、ぬ、下、や、と、ら、い、  
い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、  
物、も、信、し、経、巻、と、い、ふ、て、後、ま、た、信、巻、と、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、い、ふ、

ら、ち、ち、び、し、く、白、蓮、も、の、ち、ま、る、こ、う、い、ふ、う、ち、ま、く、と、の、こ、う、い、く  
これ入り。や、ち、ち、ち、ち、こ、う、な、り。そ、後、ま、た、お、ま、の、ま、た、お、ま、の、お、ま、  
ら、り、お、ま、い、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、  
の、ち、お、ま、い、お、ま、の、ち、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、  
お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、  
て、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、  
の、ち、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、  
い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、  
ん、じ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
や、か、ら、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
の、ち、お、ま、い、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、  
て、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、お、ま、  
い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、  
い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、う、

追のりてたぐく樹と事せてやうして、  
るまいのりうまひと事せてやうして、  
ゆきりかを難儀流し、  
近き山に大なる草華とて、  
このけしきをみる今ハいしぞう

③ 三 寄 樹 娘 所 道

とそいふてえたるゆきをば、  
の更ゆきば、  
近き山に大なる草華とて、  
甲斐の山に、  
はあやとれを名と事せて、  
この山に、

あぢぢの葉は、  
老にえりて、  
とみまを、  
うり飯の、  
あひら、  
とす、  
手す、  
ふと、  
たれ、  
んて、  
まは、





